

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（1月）

発表日：2月23日（水）

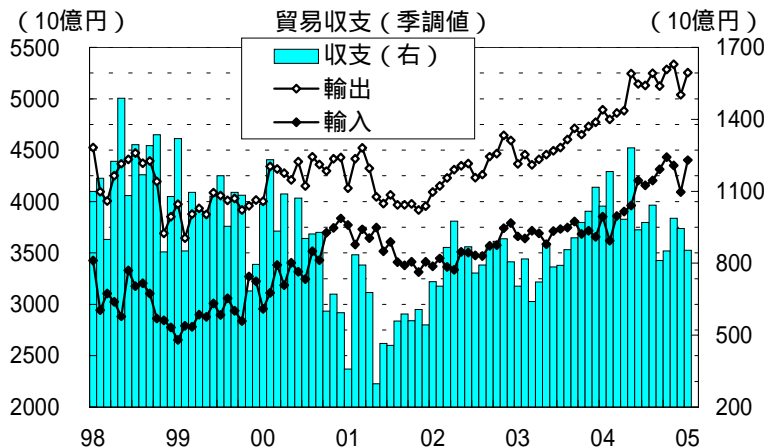
～ 輸出は未だ横這い圏内の動きから脱しきれていない ～

(No. J - 124)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL:03-5221-4528



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
04年 1月	1038	4892	3854	500
2月	1183	4802	3619	1402
3月	1003	4862	3860	1123
4月	983	4885	3903	1076
5月	1281	5244	3963	931
6月	939	5145	4207	1143
7月	970	5130	4160	1134
8月	1042	5248	4206	573
9月	811	5124	4313	1232
10月	851	5284	4433	1155
11月	987	5338	4351	598
12月	945	5038	4093	1137
05年1月	855	5257	4403	201

(出所：貿易統計・財務省)

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年 1月	11.3	1.6	13.1	0.2	11.1	17.0	0.8	4.7	5.7	29.8	1.2	8.3
2月	10.3	1.6	12.0	5.8	8.6	6.8	0.9	3.9	3.1	21.1	3.7	5.5
3月	13.2	0.8	14.2	7.1	14.2	8.6	12.3	4.5	17.6	5.9	14.3	21.3
4月	10.8	2.1	13.2	3.9	6.2	10.2	6.6	3.3	10.2	24.5	2.3	11.9
5月	9.8	0.6	10.5	6.4	7.3	7.5	5.0	5.3	0.3	45.3	3.9	4.6
6月	19.4	1.3	17.9	9.2	18.4	15.1	15.5	5.0	10.0	26.1	10.9	12.5
7月	14.3	2.2	11.8	0.3	11.1	12.5	8.3	4.4	3.7	0.2	3.5	7.0
8月	10.5	0.5	11.0	4.5	7.8	11.8	18.6	4.8	13.1	23.2	6.3	14.8
9月	12.4	0.5	11.9	7.2	6.8	16.6	12.5	8.5	3.7	17.2	2.7	8.9
10月	11.7	6.2	5.1	3.7	1.1	9.8	12.7	12.0	0.6	40.7	5.4	2.2
11月	13.4	7.6	5.4	2.8	3.3	13.6	28.1	11.8	14.6	10.7	11.8	16.0
12月	8.8	5.9	2.8	0.5	3.2	6.9	11.0	8.0	2.7	16.6	0.3	4.5
05年 1月	3.2	6.6	3.1	5.1	14.5	1.4	11.6	9.0	2.4	32.4	5.1	5.0

貿易黒字の緩やかな縮小傾向は変わらず

2005年1月の貿易黒字額（原数値）は2,008億円（前年比 59.9%）と、市場予想（コンセンサス4,974億円、3,532～6,460億円）を下振れた。コンセンサス比の下振れ幅がかなり大きい。元々1月は（原数値での）貿易黒字が年間で最も少なくなる傾向のある月であり、小額の減少でも前年比では大きく落ち込むことが多い。このため、過度に今月の貿易黒字のマイナス幅を懸念する必要はないだろう。実際、季節調整値では、これまでのトレンド範囲内の減少にとどまっている。基調としてみれば、原油価格の高止まりによる輸入金額の増加と輸出の伸び悩みといった要因から、貿易黒字は2004年春頃をピークにこのところ若干減少傾向で推移している状況に変化はない。

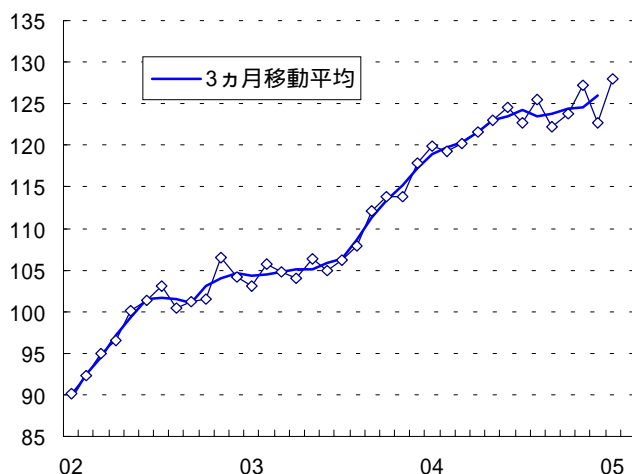
輸出は横這い圏を脱しきれていない

最も注目されていた実質輸出（輸出額 / 輸出物価、季節調整は当社）については、季節調整前月比 + 4.3%

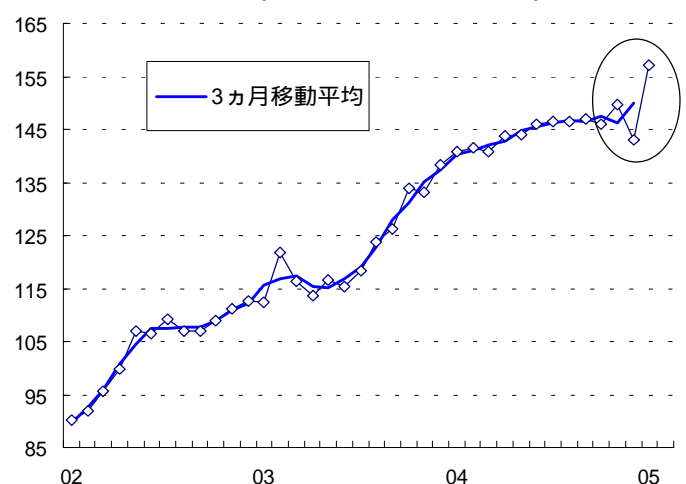
(12月同 3.6%)と2ヶ月ぶりの増加となった。一見輸出の伸びが高まったようにも思えるが、実勢としてはさほど強くない。これは、アジア旧正月要因による攪乱があったためだ。昨年は1月だった旧正月が今年は2月にあるため、休日日数の違いから1月のアジア関連輸出はかなり押し上げられていると考えられる。実際、実質輸出(季節調整値)は、米国向け、EU向けが低迷する一方で、アジア向けが同+9.8%と突出して増加している。こうした特殊要因については2月に反動減が予想されるため、1,2月は均してみる必要がある。なお、参考までにアジア向けを除いたベースでみれば、実質輸出は前月比 0.8%と2ヵ月連続での減少となっている。以上から、旧正月要因による攪乱を除けば(実際にどの程度の影響があったかを判断するには来月を待つ必要がある。)、輸出は未だ横這い圏内の動きを脱しきれていないとの判断が妥当だろう。

昨年10-12月期までで減速局面は終わりを告げ、1-3月期以降、輸出は回復に向かうとの見方も一部にはある。しかし、世界的なIT関連財の在庫調整もまだ終了したとは言い難く、輸出に先行する各種指標の改善もまだ明確ではない状況が続いている。IT以外の財に関してはさほど落ち込んでいないことや、IT関連財の落ち込みも過去の調整局面に比べれば限定的であること等から、輸出がこの先減少していくとは考えにくい。一方、輸出が足元から明確な回復に向かうほど外部環境が改善しているわけでもない。当面、輸出は一進一退の状況が続くと思われる。輸出が拡大基調を強めてくるのは、世界的なIT関連財の在庫調整が終了し、海外経済の回復力も高まってくる年後半になると予想される。

2000年 = 100 実質輸出(世界全体、季節調整値)



2000年 = 100 実質輸出(アジア向け、季節調整値)



2次QEで輸入は下方修正、GDPは小幅上方修正の可能性

SNAでは、財の輸出入だけでなくサービス輸出入も加味して計算されている。これと同じ方法で計算したところ、1月の実質輸出は前月比 0.5%、実質輸入は同+1.4%となった¹。この結果、1月の対2004年10-12月期比は、実質輸出が+0.4%、実質輸入が+0.2%となり、外需寄与度は0.0%ポイントとなる。まだなんともいえないが、現時点までの状況からみると、1-3月期は輸出入とも前期から伸びが鈍化する形になる。輸入に関しても、生産鈍化の影響がようやく出てきている可能性が示唆される。

なお、細かい話になるが、10-12月期の輸入は3月14日に公表されるQE2次速報において下方修正が予想される。1次QE段階では国際収支の12月分が反映されておらず、12月のサービス輸入等は、10、11月分の情報

¹ 試算方法に関しては、新家義貴、石川裕子(2005)「景気動向把握手法の改善に向けて - 総合指数の改定について -」(内閣府政策統括官(経済財政分析担当)『経済財政分析ディスカッション・ペーパー』DP/04-1-1)

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/discussion-paper/dp041-1-1.pdf> を参照のこと。

等を元に推計されていた。しかし、実際に12月の国際収支を反映して計算すると、輸入の伸びは前期比 + 2.3%程度(1次Q E 段階: 同 + 3.1%)に下方修正され、同時に同期の実質GDPも0.1%ポイント弱上方修正される可能性がある。他の需要項目の改定状況によっては、2次Q E 段階で実質GDPが前期比プラスに転じる可能性は十分にあるだろう。

